

2024/4/10

トナルニリス



池田 良徳 (大阪府立大学 名誉教授・客員教授)

新クルーズ学

64

14年ぶりに現代クルーズ発祥の地であるマイアミ港を訪れました。新型



「アンコン・オブ・ザ・シーズ」を先頭に、ずらりと大型クルーズ客船5隻が並ぶマイアミ

現代クルーズ発祥地は今

質を保つうえで安価にし、さらに乗りやすくするために短くすることでした。

リーズナブルプライスを実現するために規模の経済を活用し、乗りやす

くするために週末の金土日の夕刻に出港して、同

じ曜日の朝に戻る1週間クルーズを、年間を通じて定期的に行けるスタイ

クルーズ客船として登場した25万総トンの「コアイコ

隻もずらりと並んでおり、それでも足りずに岸壁とターミナルビルの新設工事が進んでいました。

昨年マイアミ港の統計によると、クルーズ客数は730万人に達し、

コロナ前の19年の7%増となつています。経済効果は6・5兆円で、34万

人の雇用を生み出している

クルーズ客船の誘致とともに、コンテナ船の誘致も進めており、年間109

万個のコンテナを扱うようになり、クルーズとコ

ンテナを合わせた港関連の経済規模は、マイアミの

広域市のGDPの19%を占めるまでになっていま

す。

今回の渡米では、木曜

ラバディも、会社が半

す。

島ごと50年間借りてプラ イベートビーチを整備したマリニリゾート施設ですが、ハイチの政情不安定から寄港は取りやめになりました。

さて、ココケイのプラ

イベート島は、小さな岩礁とも言えそうな小さな島に、いくつかのビーチ

やウォータースライダーなどを整備したもので、

2隻の大型クルーズ客船が着岸できる岸壁が造ら

れていました。島では食事をしたり、飲んだり

しますが、そのサービスはすべて船の船員がしま

す。現金をもつ必要はなく、乗船カードで各種の

支払いができます。

カリブ海でクルーズを行く会社は、どこも、同

様のプライベート島を整備していますが、乗客の

セキュリティを確保する

クルーズを現役世代も楽しめる気軽な旅にするために、サービスの品

マイアミ港に毎日6-8